“週１回の楽しみ”から つながる ひろげる

～ファッションブランドが取り組む社会的課題への関心の広げ方～

デザインは取材でのイメージをもとに1枚ずつ手書きで作成されている。

これまで作成したデザインの版

本会では、生活の困りごとや地域の課題を早期に発見する仕組みづくりに取り組んでいます。日々の活動を通じて、浮かび上がってくる課題に対しては、住民とともに解決する活動を展開し取り組んでいますが、その解決のためには、より多くの人に語りかけ、仲間になってもらう活動が必要です。今回は、ファッションブランドJAMMIN（ジャミン）共同創業者高橋佳吾さんからお話を伺い、ファッションを通じたチャリティー活動から、さまざまな社会的課題にこれまで関心のなかった人へ理解や共感を広げていく取り組みについて考えます。

「自分たちができるアプローチで、知らなかった出会いを広げよう」

ファッション×社会的課題×チャリティー

JAMMINは、Tシャツなどを販売するファッションブランドです。そこで販売されている商品はすべて社会的課題に取り組むNPOなどと連携し、活動にちなんだデザインの商品です。週替わりで新しい商品を発売し、ホームページを通じて販売します。その売り上げの一部が寄付される仕組みとなっています（下図を参照）。

もともとは、アメリカで行われていたビジネスモデルを参考にし、職場の同期だった西田太一さん（同社代表）と高橋さんによって立ち上げられました。立ち上げの思いの背景には、これまでお二人が関わっていた東南アジアでの大規模で長期間にわたる国際協力のプロジェクトの経験があったと言います。現地で日々出会うスラムの子どもたちの姿やそこで暮らす人々の声を聞き、「何十年か先ではなく、今、困っている人に自分たちでできることがあるのではないか」と強く感じたそうです。その時、NPOの活動の機動力に魅力を感じ、「自分たちも今できることを形にしたい」とJAMMINの立ち上げにつながっていきました。「社会的課題に興味があったし、音楽やファッションが好きだった。たまたまそれらがつながった」と振り返ります。

丁寧な取材から生み出される〝メッセージ〟

毎週、１週間という限定で発信されるデザインは、さまざまな社会的課題に取り組むNPO等の活動が取り上げられています。ニート、ひきこもり、ホームレス支援、LGBTといったまだ社会的にも認知が低い取り組みにもスポットをあてています。これまで取り上げた団体は177団体。1458万522円のチャリティー実績（2017年10月8日時点）があります。

「団体の活動をじっくり取材し、商品とともに活動を紹介している。社会にあるさまざまな課題に向き合って取り組んでいる人たちの思いや活動を、誰もが気軽に知るきっかけをつくることを大切にしてきた」と高橋さんは言います。

丁寧な取材から生み出されたデザインは、問題を前面に押し出すようなものではなく、ポジティブに多くの人に届くメッセージとイラストで描かれています。

たとえば、子ども食堂の取り組みをどう発信するか。地域で孤立し、食事をとれない子どもたちがいるという現状から、〝みんなで食べると楽しいよね〟というメッセージにする。そして、メッセージとともに描かれるイラストは、ありたい未来を形にし、より多くの人に共感と理解を広げていきます。

社会的課題と日常をむすぶもの
―商品とともに届くストーリー

「まず入口は、ファッションブランドとして、あくまでもTシャツのデザインや素材から。チャリティーだから買うと思われないようにしたい」と高橋さんは言います。気に入ったデザインを見つけた時にそのデザインの背景にあるストーリーとつながるという仕組みを大切にしています。また、知るだけにとどまらず、共感してくれた人の次の一歩を後押しし、行動を広げています。

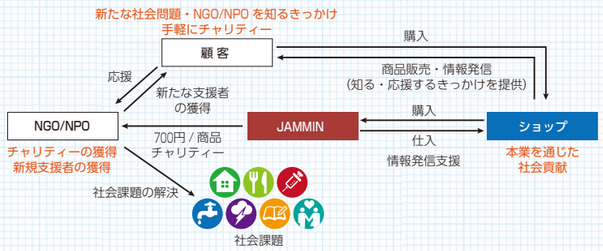
「自分がお金を払ったことは覚えているもの。たとえば、ひきこもり支援活動のTシャツデザインを気に入って購入した人が、そのあとニュースを見てひきこもりの話題とつながり、今度は自分からスマートフォンで調べるという形で深まっていけばよいのでは。これまでの日常では全く知らなかったことを初めに知る場所になればいい」高橋さんの言葉から、商品の購入を通じて、その背景にある社会的課題への意識がゆるやかに日常に浸透し、深まっていく―そんなJAMMINの魅力を感じます。

普段の暮らしの中で、購入したTシャツを着たり、そのデザインについて話題にすることで、社会的課題と自分の生活がつながっていく仕組み。楽しみから共感や理解を広げ、さまざまな活動の応援者を増やしていくJAMMINの活動には、これまで社会的課題に関心のなかった人たちとつながるヒントがあります。また、より多くの人に様々な活動を知らせることで、今まで必要な人につながっていなかった支援を届けることにもつながります。

本会で重点事業として取り組んでいるボランティアの入口デザインプロジェクトでは、誰もが福祉に関心を持ち、参加しやすい仕組みづくりを目指し、活動者を増やすことや福祉への関心の広げ方を模索しています。また、前述の記事で紹介している生活困窮社会における地域づくり研究会では、社会で孤立しがちな人に必要な支援を届ける仕組みづくりについて検討を重ねています。今後もさまざまな活動や方法とつながりながら、取り組みを進めていきます。

左から）同 社 代 表の西田太一さん（34）
共同創業者の高橋佳吾さん（34）
デザイナーの日高啓寛さん（28）

JAMMIN合同会社
JAMMIN LLC.

住　所
〒610-0343　京都府京田辺市大住池ノ谷45-1
ホームページ　https://jammin.co.jp/
毎週月曜日にあたらしいデザインが発信されます！

JAMMINのチャリティーの仕組み（図）